２０２２（令和４）年度卒業生　就職活動体験記

西日本旅客鉄道株式会社

経済情報学科

溝山　輝子

出身校：
近畿大学附属広島高等学校（福山校）

あまり対策をしないまま最初にエントリーした企業は、とんとん拍子に最終面接まで進みました。期待感の中で挑んだ最終面接の結果は、不採用...。原因が分からずとても落ち込みました。さらに、友人から内々定の知らせが届き始めた時期と重なったため、不安と焦りで一杯になりました。そのような暗い気分の中、自分なりに不採用になった原因を探るようになりました。そこで分かったのは安易な志望動機と浅い自己分析でした。これが最終面接で見抜かれたと気付きました。それからは就職活動の基本に立ち返り、就きたい仕事や自己分析を深堀りすることにしました。深堀りは「なぜ?」を数回繰り返すことで自分の強みや価値観が現れてきます。この方法で、自分自身のこれまでに取得した資格試験やゼミ活動、部活動や趣味なども徹底的に深堀分析しました。この結果、エントリーシートに記載する志望動機や自己PRの内容が充実して、面接での受け答えにも自信が持てるようになり、ようやく内定を獲得できるようになりました。

私は就職活動中に困ったことがあればキャリアサポートセンターを訪問していました。そこで先生方に悩み事を相談して、いろいろなアドバイスや励ましの言葉をいただきました。とても感謝しています。

就職活動を終えた今、「楽しんで大学生活4年間を過ごす」ことが大切だと思っています。それは大学生活で体験したことが、自分自身の知識や経験となり就職活動に活きてくるからです。授業、ゼミ活動、部活動やアルバイト、好きなことなどに全力で取り組んで充実した4年間を過ごしてください。辛い時は少し休んでも大丈夫です。頑張ってください。応援しています。

広島県庁

経済情報学科

平前　佳祐

出身校：
広島県立三原高等学校

公務員試験の対策で大切だと感じたことは「毎日の積み重ね」です。公務員試験は試験科目も多く、長期的な対策が必要になります。特に、自分の苦手科目と向き合うことが多くなるため、不安な気持ちになることもありました。そんなときこそ、「一日一問でも解こう」という地道な努力の積み重ねがやはり大事だと思います。目標を決め、計画的に効率よく勉強することも大切ですが、何もしない日を作らないことの重要性を実感しています。このことは、公務員試験に限らず、他の就職活動にも言えることだと思います。サークル活動やアルバイトなど努力の形は人それぞれです。何か一つでも継続して取り組むことが就職活動に役立ちます。私も、4年間続けたアルバイトでの経験が就職先の決め手となりました。

また、誰かに頼ることも大切です。私は、キャリアサポートセンターでエントリーシートの添削をしていただきました。客観的な意見を得ることができ、そのおかげで、内定を得ることができたと考えています。

最後に苦労した経験や失敗は無駄にはなりません。その経験はみなさんの糧になると思います。ぜひ、自分のやりたいことに悔いのないよう、挑戦してみてください。みなさんの挑戦を応援しています。

株式会社アンデルセンサービス

日本文学科

小川　歩希

出身校：
広島県立広高等学校

自分のやりたいことって、何? 就職活動において、必ず現れる問いです。皆さんも、将来の夢は?と聞かれて、一度は考えた経験があると思います。子供の頃からの夢が無かった私は、自分のことを知る所から就職活動を始めました。就活サイトの診断を活用したり、私ってどんな人?と周囲の人々と話したりする中で、向き不向きや物事に対する姿勢などの客観的な自己理解を深めました。これらの自己分析を基に就職活動を続けていると、次第に自分の中の指針も増え、漠然としていた進路が絞られていきました。最終的にご縁を頂き、現在に至ります。

やりたいことが見つからない時は、自分が好き、あるいは嫌いなものや人を一度見つめ直すとよいと思います。自分が大事にしていること、許せないもの、それらとの距離感を意識することは、自分のらしさを認識することに繋がるからです。また、周囲の友人等、サポートしてくれる方を頼りつつ、休む時はしっかり休みながら活動を続けることが大切だと実感しました。

まだまだ気の抜けない情勢の中ですが、皆さんが学生生活を目一杯楽しめますように。そして、納得のいく就職活動になりますよう、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

広島県内公立高等学校

美術学科

石川　七海

出身校：
広島県立安芸府中高等学校

就職活動において自己分析は大切だと言われますが、私にはたしかに必要なことだったと今では思います。自分が何をしたいか、何ができるか等、まず考えなければ私は行動に移せませんでした。そしてこういった自分と向き合う力を制作活動を通して身につけました。

制作活動は自分との闘いです。手を止めるゴールのタイミングもテーマも表現方法も全て自分で選びます。美術は自由と言われることがありますが、美術という枠があること自体全然自由ではなくて、不自由な世界で生きていく（絵を描き続ける）には自分を知り、自分を信じるしかありません。こういった制作活動を通して学んだことは、教員採用試験の勉強の仕方や面接の質疑応答に役立ちました。

また私が就職活動で一貫して話していることは「生徒の可能性を広げられる教員になりたい」ということです。この目標（将来像）を忘れず日頃から意識して生活するよう努めています。まだまだわからないことや、できないことはたくさんありますが、目標に近づくためにこれからも勉強、制作を続けていきたいです。